



より効率的な水利用が食料増産のカギとなる ©FAO/Jon Spuall

## 2050年の世界を養うために

### ——食料生産は70%の増加が必要

FAOは、2009年10月12-13日にローマで「2050年の世界をいかに養うか」に関するハイレベル専門家会合を主催し、研究レポートを発表しました。今月号ではその中から、食料生産の必要性、気候変動と研究開発投資に関するレポートを紹介します。

最新の国連予測では、世界人口は今日の68億から2050年には91億に増加し、そのほとんどが開発途上国におけるものと見込まれています。需要の増加に応じて、食料は70%の増産が必要となります。FAOは、作物の増産の90%は単収と作付集約度の増加によって達成され、このほかに、主にサハラ以南アフリカとラテンアメリカの途上国で約1億2,000万haの耕地拡大が必要とみています。ただし、潜在的

に利用可能な土地は必ずしも需要のある作物に適しているわけではないうえ限られた国に集中しており、未耕地の多くには簡単に克服できない問題があるため、生産実現には大規模な投資が必要です。淡水資源は世界的に十分にあるものの分布がきわめて不均衡で、特に近東・北アフリカと南アジアでは、より効率的な水利用による生産がカギとなります。(9/23、ローマ)

#### 関連ウェブサイト

High-Level Expert Forum: How to Feed the World in 2050 : [www.fao.org/wsfs/forum2050/wsfs-forum](http://www.fao.org/wsfs/forum2050/wsfs-forum)  
HLEF Issue Briefs : [www.fao.org/wsfs/forum2050/wsfs-background-documents/issues-briefs](http://www.fao.org/wsfs/forum2050/wsfs-background-documents/issues-briefs)  
World Summit on Food Security : [www.fao.org/wsfs/world-summit](http://www.fao.org/wsfs/world-summit)  
FAO日本事務所：プレスリリース：2050年：更に3分の1増加する人口を養わなければならない： [www.fao.or.jp/media/press\\_090923.pdf](http://www.fao.or.jp/media/press_090923.pdf)

## Contents

Top .....

2050年の世界を養うために

Articles .....

気候変動と2050年の食料生産

東アフリカで飢餓がさらに深刻に

新たな排出削減メカニズムに南北が合意

「海賊漁業者」の隠れ場を排除

土着の食文化が直面する危機

Perspectives .....

今月の視点  
アフリカ農業の潜在力

Activities .....

関連イベント

講演会

Info .....

今後の主な活動予定

本紙の配布について

テレフォード募金にご協力を

メールニュース配信のお知らせ

FAO 寄託図書館のご案内

## 気候変動と2050年の食料生産

—農業研究への投資増加が肝要

FAOは、2050年までに気候変動が食料生産に与える影響として、開発途上国では総農業生産可能量が9-21%減少する可能性があると推計しています。大気中のCO<sub>2</sub>濃度の上昇が作物の単収に良い影響を与える場合もありますが、農産物の栄養面での質は、単収に比例して増加するとは限りません。2050年以降はさらに温度が上昇し、途上国では農業生産の顕著な減少と価格の大幅な上昇が予測されます。(9/30、ローマ)

農業技術の向上などによって生産を拡大できる分野がいくつかあり、まず挙げられるのは農業投入材の利用効率を上げることです。有望な技術の一つである不耕起保全農業は、農場の燃料使用を平均で3分の2に減らし、土壌に炭素を固定させる効果があります。また改良作物品種の開発も、単収を上げ、気候変動や水不足への耐性を向上することができます。しかし農業が新技術の恩恵にあずかるには、調査研究への更なる投資が必要です。(9/25、ローマ)

### 関連ウェブサイト

High-Level Expert Forum: How to Feed the World in 2050 : [www.fao.org/wsfs/forum2050/wsfs-forum](http://www.fao.org/wsfs/forum2050/wsfs-forum)

HELF Issue Briefs : [www.fao.org/wsfs/forum2050/wsfs-background-documents/issues-briefs](http://www.fao.org/wsfs/forum2050/wsfs-background-documents/issues-briefs)

World Summit on Food Security : [www.fao.org/wsfs/world-summit](http://www.fao.org/wsfs/world-summit)  
FAO日本事務所：プレスリリース：2050年：気候変動が貧しい人々の窮状を悪化させる：[www.fao.or.jp/media/press\\_090930.pdf](http://www.fao.or.jp/media/press_090930.pdf)

FAO日本事務所：プレスリリース：2050年：農業研究への投資増加が肝要：[www.fao.or.jp/media/press\\_090925.pdf](http://www.fao.or.jp/media/press_090925.pdf)

## 東アフリカで 飢餓がさらに深刻に

すでに2,000万人近い人々が食料支援を受けている「アフリカの角」<sup>※</sup>地域を中心とする東アフリカでは、例年以下の少雨や紛争、避難民の拡大が原因で、2009年の収穫予測は厳しく、食料危機がさらに拡大するとみられます。年末にかけてエル・ニーニョが大雨をもたらすと、洪水や土砂崩れを引き起こし、状況がさらに悪化する恐れもあります。食料価格は徐々に低下しているものの、昨春のピーク時に比べると、いまだ2倍前後にとどまっており、人々の購買力が大きく低下しています。(9/21、ローマ)

※ アフリカ大陸東端の、ソマリア全域とエチオピアの一部などを占める半島

### 関連ウェブサイト

FAO's Global Information and Early Warning Service on Food and Agriculture : [www.fao.org/giews](http://www.fao.org/giews)

FAO Food Security and Nutrition Analysis Unit - Somalia : [www.fsasomali.org](http://www.fsasomali.org)



世界全体で排出される温室効果ガスの5分の1弱は森林の減少と劣化が原因  
©FAO / Giulio Napolitano

## 新たな排出削減メカニズムに 南北が合意

12月のコペンハーゲン気候変動会議を前に、国連本部に18カ国の首脳と80を超える国や関係各界のリーダーら150人以上が集まり、開発途上国における森林減少・劣化に由来する温室効果ガス削減 (REDD) への尽力と支援を公に表明して、過去に例を見ない協力姿勢を示しました。日本を含む各国の高官も、自国の取り組みを改めて強調しました。世界全体で排出される温室効果ガスの5分の1弱は森林の減少と劣化が原因ですが、現行の京都議定書では、途上国は森林が持つ社会面、環境面の便益の対価として排出権を取得できません。コペンハーゲンの会議で議論されることになっているREDDメカニズムは、こうした動機づけの変更を提案するものです。FAOは、国連開発計画 (UNDP)、国連環境計画 (UNEP) と共同で国連REDD計画を立ち上げ、森林の減少と劣化に伴う排出量の削減と、今後のREDDメカニズムの実施を図る各国の能力育成を支援しています。(9/23、ニューヨーク)

### 関連ウェブサイト

UN-REDD : [www.un-redd.org](http://www.un-redd.org)

FAO Forestry : [www.fao.org/forestry](http://www.fao.org/forestry)



気候変動は食料安全保障に深刻な影響を与えるとみられる  
©FAO / J. Thompson

## 土着の食文化が 直面する危機

熱帯雨林や北極圏の奥地に住む少数民族は、健康的で非常に栄養価の高い食物を承継していることが、FAOとマギル大学の研究所が最近共同出版した本で明らかにされました。少数民族の人々の健康を維持してきた土着の食物は、経済的な圧力やグローバリゼーションにより急速に失われつつありますが、タイのカレン族や、ケニアのマサイ族、カナダ北極圏のイヌイットなどのコミュニティは、多様な伝統的食料を現在でも取り入れています。こうした食物は、一般的に美味しいだけでなく、非常に多くの微量栄養素を含んでいます。一方で、工業化した西欧諸国の食生活は麦、コメ、トウモロコシ、大豆の4大作物に大きく依存しています。FAOの試算によると、この1世紀の間に、かつて存在した作物多様性の4分の3が失われており、伝統的な食料資源を守ることは生物多様性の保全の観点からも重要です。(9/7、ローマ)

### 関連ウェブサイト

Indigenous Peoples Food Systems: the many dimensions of culture, diversity and environment for nutrition and health : [www.fao.org/docrep/012/i0370e/i0370e00.htm](http://www.fao.org/docrep/012/i0370e/i0370e00.htm)  
FAO Nutrition and Consumer Protection Division : [www.fao.org/ag/agn](http://www.fao.org/ag/agn)

## 「海賊漁業者」の 隠れ場を排除

FAOの仲介で、加盟国91カ国は、違法・無報告・無規制 (IUU) 漁業に関与した船の入港禁止を目的とする「IUU漁業を防止、抑止、排除するための寄港国措置に関する協定」を巡り協議を重ねていましたが、ついに合意に達しました。「寄港国措置」は、規則に違反した漁業への最も効果的かつ費用対効果に優れた武器の一つとして広く認められています。今回の合意成立により、日本を含む加盟各国は、自国港湾でのIUU漁業対策を強化するため、自国の特別指定港に入港を希望する外国漁船に許可申請を義務づけたり、検査官の訓練を充実させるなど、数多くの措置をとることになります。協定には大きな柱として、途上国の施行を助ける支援策も盛り込まれています。(9/1、ローマ)

### 関連ウェブサイト

Feature: Stronger port security key to fight against illegal fishing : [www.fao.org/newsroom/en/news/2006/1000380](http://www.fao.org/newsroom/en/news/2006/1000380)  
FAO's Fisheries and Aquaculture Department : [www.fao.org/fishery](http://www.fao.org/fishery)

「寄港国措置」とは、違法な漁業を行う者を取り締まるために沿岸国が漁港で行う措置

©FAO/M. Namundjebo



## 今月の視点

### アフリカ農業の潜在力

アフリカの食料・農業というと、農業生産の停滞、食料輸入の増加、多くの慢性的な栄養不足人口の存在という姿を思い浮かべがちですが、2008年には、サハラ以南アフリカの農業部門は、人口増加率の2%を上回る3.5%以上の成長を示し、過去との決別、見通しの改善を示唆するものとなりました。

アフリカには、分布の偏りはあるものの、農業生産に必要な天然資源が豊富にあります。開発には、インフラ、環境保護等の面で多大な投資が必要ですが、25カ国、約6億haに及ぶギニア・サバンナは、現在10%が耕地として利用されているに過ぎず、農業生産の大きな可能性を有しています。また、水資源についても、かんがい面積の割合は、世界全体の20%に対しアフリカでは3%に過ぎず、かんがいによって単収と生産は大きく伸びます。

このような潜在力を実現するためには、克服すべき課題もあります。農業研究の推進と技術の普及、インフラや貯蔵施設の整備、小規模農家と市場の連携、農村部での雇用機会の創出、環境の保護、紛争、HIVへの対応等の課題を克服するための支援が得られれば、この大陸は、農業分野で大きく成長し、それが飢餓・貧困削減の原動力になります。

(FAO日本事務所長 横山光弘)

関連報告書: 「The special challenge for sub-Saharan Africa (discussion paper)」 FAO, 2009

# Activities

## 関連イベント

10月6日の「国際協力の日」を記念して開催される国内最大級の国際協力のイベントであるグローバルフェスタJAPAN2009が、10月3-4日、日比谷公園（東京）で開催され、FAO日本事務所が出展しました（外務省・JICA・JANIC共催）。1990年より開催されているこの行事は、楽しく分かりやすい参加型イベントを通して、国際協力を身近に感じるとともに、開発途上国の現状とODAを含む国際協力の必要性や国際協力にあたっての政府、国際機関、NGOの活動を広く理解することを目的としています。今年の主なテーマは「環境・気候変動問題」でした。開発途上国における「貧困問題」についても、さまざまな展示・参加型イベントを通して体感してもらい、今後の国際協力への積極的な参加を促しました。FAOのブースでは「気候変動への適応：バングラデシュの事例」や「国際天然繊維年」などのDVDを上映し、ポスター・パネル展示と資料の配布を行いました。初日は雨模様でしたが、2日目は天気にも恵まれ、世界の食料・農業問題の動向に関心のある方々が立ち寄られました。

### 関連ウェブサイト

グローバルフェスタJAPAN2009：www.gfjapan.com



FAO日本事務所のブース ©FAO/LOJ

## 講演会

10月7日、第2回食料・農業協力講演会が行われ、「蜂群崩壊症候群に学ぶ養蜂振興の基礎整備」をテーマに、玉川大学ミツバチ科学研究センターの中村純教授にお話をいただきました（JAICAF・農林水産政策研究所共催）。養蜂は、初期投資が相対的に少なく土地利用に関する制限がないことから、途上国の地域開発によく

利用されるだけでなく、ミツバチに必要な環境を整えることで地域の生物多様性にも貢献することが紹介されました。また、最近世界各地で報告されているミツバチの失踪現象である蜂群崩壊症候群（CCD）は、単一の原因は特定されていないものの、栄養および衛生状態の改善である程度防止できると報告されています。中村教授は、得体が知れないといたずらに騒ぐのはやめて、そこにある植物の花を資源として利用するミツバチにとって、現在の生物多様性の低下が問題の根底にあると考え、同時にこのことがミツバチの視点から人間が環境を見直す有意義な機会を与えてくれたと捉えていきたいと締めくくりました。

### 関連ウェブサイト

JAICAF：ニュース：www.jaicaf.or.jp/news/index.htm



講師の中村教授 ©JAICAF

## 今後の主な活動予定

2009.11.6-7

### 第48回農林水産祭 「実りのフェスティバル」

東京／東京ビックサイト  
農林水産省ほか主催、FAO日本事務所ブース出展

2009.11.14

### 国際協力キャリアフェア2009

東京／こまばエミナース  
国際協力キャリアフェア実行委員会主催、  
FAO日本事務所ブース出展、  
FAO本部担当者によるキャリアセミナー開催

2009.11.16-18

### World Summit on Food Security FAO Headquarters, Rome

2009.11.18-23

### FAO Conference 36th Session FAO Headquarters, Rome

## 本紙の配布について

本紙「FAO Newsletter」は、季刊誌「世界の農林水産—FAO ニュース—」とセットでJAICAFの会員にお送りしています。ご希望の方はJAICAFまでお申し込みください。指定場所でも配布しています。詳しくはJAICAFウェブサイトをご覧ください。

## テレフード募金にご協力を

募金は、アジアやアフリカの食料不足の地域で、貧困農民の食料増産を支援する「テレフード・プロジェクト」に使用されます。

※振替手数料無料。ご寄付は税金控除の対象となります。

### 郵便振替口座

00140-1-29732

FAO 飢餓撲滅草の根募金



## メールニュース配信のお知らせ

FAO日本事務所では、FAOに関する各種情報をEメールで不定期に配信しています。ご希望の方は下記までご連絡ください。

FAO-Japan-Info@fao.org

## FAO 寄託図書館のご案内

### 所在地

神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1  
パシフィック横浜 横浜国際協力センター5階  
FAO日本事務所内

### 利用予約および問い合わせ

TEL：045-226-3148

E-mail：fao-library@jaicaf.or.jp

### 開館時間

平日10:00-12:30、13:30-17:00

発行：(社)国際農林業協働協会（JAICAF）

〒107-0052

東京都港区赤坂8-10-39 赤坂KSAビル3階

TEL：03-5772-7880

E-mail：fao@jaicaf.or.jp

URL：www.jaicaf.or.jp

共同編集：宮道 りか、Linda Yao（FAO日本事務所）

森 麻衣子、廣瀬 ちづる（JAICAF）

翻訳協力：大野 恵美子 ほか

デザイン：岩本 美奈子、数内 新太

News source：www.fao.org

この用紙は再生紙を使用しています

## FAO Newsletter

Nov. 2009

vol.44